

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア植田 1		
所在地	愛知県名古屋市天白区植田一丁目1807		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	平成25年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ一人ひとりが、利用者様一人ひとりの人間性や性格に配慮し誇りやプライバシーを損なわないよう声がけをしながらのケアを重視しています。家事など共に協力し合い、楽しくゆっくりと生活していただけのような空間作りと環境を整え、四季折々の行事やレクリエーションを組み込みながら支援しています。また医療面では、隣接する山内外科の医師、看護師、訪問看護師と連携を密に取り、24時間体制で安心して生活を送って頂けるよう、健康管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「今までと変わらない、安らかで心和む暮らしをして頂きたい」という理念のもと、時間に追われることなく本人のペースを大切にしたいその人らしい生活ができるよう職員は支援している。また、利用者の気持ちに寄り添い傾聴することを心がけている。同医療法人の病院が隣接しているため、緊急時にはいつでも診てもらえる体制が整っており、利用者・家族とも安心して暮らせる環境となっている。ホームでは日常的な外出支援のほか、季節を楽しんで頂けるよう梅・桜を見に行ったり、法人合同で行われる春と秋の日帰りバスツアーや一泊旅行なども企画され家族も参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念を施設内に掲示し、根本的に意識づけ、実践に繋げています。また、当施設では個々にゆっくり、のんびりとした生活ペースでその人らしく暮らしを送れるよう努めています。	職員は利用者一人ひとりのペースを大切に、やりたいことや出来ることを見守りながら穏やかに暮らせるよう支援している。ホーム独自の理念も挙げており、職員は実践に向けて一丸となって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりはまだまだ薄いですが、散歩や買い物などの出先では、声をかけてくださる人や、関心を示してくださる人もいます。施設内だけの生活にならないよう近所へ出かけることにより、交流を図っていけるようになっていきたい。	今年度は、同医療法人の理事長が町内会長を引き受けたこともあり、行事があると直接声がかかるようになった。これを機会に地域との関わりを増やしていこうと努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の理解は難しいが、散歩や買い物などの機会を利用し、少しずつ理解していただけるようになって来ています。次年度は、町内会へ加入予定であり、地域とのかかわりを深めていけるよう努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご家族、ご利用者様からの意見や要望を反映できるよう努めています。いきいきセンターの職員も年3回は参加していただき、情報交換の場を設け、サービス向上に努めています。	いきいき支援センター職員も継続的に参加するようになり、車椅子の方を連れて行くのに良い施設を教えてもらったり、利用者が楽しめる室内ゲームを提案してもらおう等アドバイスを受けている。	色々な形で地域との交流が実現できるよう周りの人の助けを借りながら積極的に働きかけていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所との連携の下、相談、指導等を受けながら実情やサービスの取り組み、改善点に関し、協力関係を築いています。	職員は、市が主催の講習会に参加している。また、認定調査・更新手続きなどで担当者に連絡を取り合い連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、防犯と利用者様の安全上やむを得ないが、利用者様の状況に合わせ、解錠しています。身体面では、利用者様の安全を考え、ご家族様の同意を得た上で、最小限で行い、ミーティングや日々の業務の中で話し合い、安全なケアに取り組んでいます。	玄関に面する道路が周辺の抜け道となっていて車の往来が多いため、家族の了承を得て施錠している。職員は、研修等を通じて身体拘束についての理解を深める努力をしている。分からないことは抱え込まず、すぐに相談している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルにのっとり、スタッフ同士、言葉遣いや行動について互いに注意を払い、業務にあたり、コミュニケーションを大切に、ミーティング等を通じ、予防に努めています。また、法人内での勉強会での学ぶ機会も設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修等に行き、必要に応じて支援していただけるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、施設長により、当施設の方針、内容等について充分説明し、納得していただいた上で契約を交わし、入居していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議の開催時、面会時などに、ご家族様からの意見や要望をうかがう機会をもうけ、運営に生かしています。	普段の面会時のほか、アンケートを取り要望を聞き出すようにしている。また個別の相談には常に応じている。家族の面会が多いが面会時期が空いた場合は、電話をして利用者の普段の様子を伝えると共に意見・要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、ご家族様のアンケート調査を行い、定期的にミーティングを開き、その意見を示して、問題点やスタッフの意見、提案を聞く機会をもうけ、話し合いを持ち、業務に反映させています。	全員参加で行われるミーティングで、レクリエーションや食事の仕方、備品の修理など日常の業務が効率的にできるよう話し合いがなされている。問題が起こった時は、その都度会議を開き迅速な対応をして解決を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や勤務状況を把握し、公平に判断し、各自の向上に努めています。また時間外については、必要に応じ給与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会や、法人内で定期的に勉強会を開催し、個々に受ける機会をもうけています。また法人外の研修等にも参加し、スキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習会への参加する機会をもうけ、サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時より、ご本人及びご家族の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい閑居作りに努め、親しみやすく安心して生活していただけるよう、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から契約の間も、ご家族様が安心していただけるよう、十分な説明を行うとともに、ご家族やご本人の話しに耳を傾け、スタッフ間での伝達を行い、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族にとって、何が今必要なのかを、スタッフの目を通し、見極め、安心していただけるよう、サービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活のリズムを崩さないよう、一人ひとりの人間性や性格に配慮しながら、同じ目線で話し、日常生活上の営みの中で、出来る事、やっていただける事を把握し、協力し合い、安心して生活していただけるよう配慮しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、本人の意向や可能性について、ご家族様と考え、協力し合い支援に努めています。また体調の変化や訴えがある時は、敏速に連絡を取り、理解を得るよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの品物等を置いていただき、安心していただけるよう支援しています。	以前から利用していた和菓子屋さんに行ったり、飼っていた犬に会いに行ったりしている。友人の来訪や年賀状の作成を手伝うなどのできる限りの支援をして、利用者が培ってきた人や場所との関係を大切にしよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、手仕事やレクリエーションをする際は、スタッフが間に入り孤立しないよう配慮し、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じ、連絡を取り、関係を大切に、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、一人ひとりの生活パターンを把握し、その人らしく過ごしていただけるよう、時には選択する機会を取り入れています。	利用者の生活歴や好きなこと嫌いなことなどを入居時に聞き出し、担当者制度を設けその職員が先立って、時には目線やアイコンタクトも使いその思いや意向を把握、職員間で共有し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりフェースシートやサマリーを活用し、ご家族の面会地頭に話を伺う機会をもうけ、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士の情報交換や記録、申し送りなどを活用し、一日の暮らしの中での状況を把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの担当者や本人、ご家族様の意見を参考に、介護計画に反映できるように話し合いを持ち、支援計画を作成しています。	本人、家族の要望をもとに、利用者の状況に応じて介護計画を作成している。職員が日々の支援の中で状態を確認し、3ヶ月ごとに見直し、半年ごとの更新としているが、場合によっての変更もしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録により情報を共有し、ミーティング等で話し合い、ケアの実践に生かしながら、介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いきいきセンターの協力の下、その時々々の状況で社会資源を活用し、サービスを支援していけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物サキ、外食先を決め、外出等のその機会を増やし、地域資源を活用しながら、暮らしを楽しむ事が出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診、病状に応じて随時病院受診、夜間急変地頭、24時間対応していただき、本人やご家族様に安心していただけるよう支援しています。	医療法人が母体であるので、入居時に主治医の変更をお願いしている。病院は、事業所隣接で往診も受診も臨機応変の対応ができる。歯科往診、訪問看護もあり、安心できる医療体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護により、健康管理と現状把握を行い、随時、山内外科の看護師、訪問看護氏と連携を図り、24時間適切な指示、支援を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談は、蜜に行うように努め、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、医師、看護師、ご家族様との話し合いを持ち、十分に説明し理解、納得していただき、スタッフとともに支援に取り組んでいます。	重度化した場合には、主治医、看護師、ケアマネージャー、家族を交えて話し合いをして、利用者により良い支援することを決めている。職員も研修、ミーティングを重ね、看取りに至るまでの勉強をし、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等を開催し、対応や予防について理解を深めています。また事故発生時には、速やかに医師に連絡が取れるよう体制を作っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、消防訓練を年2回実施し、日ごろから発生時に備え、利用者様が非難できるよう装備等の点検、確認を行っています。	消防署の指導のもとに、春秋の二回、防災訓練が行われている。車椅子の利用者が多いことから階段を使った模擬避難訓練も職員は行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の立場に立ち、利用者様の誇りやプライバシーを損なわないよう、言葉がけにはスタッフ同士注意しあいながら対応しています。時には、方言等など混じえ、親近感を持っていただけるよう対応しています。	利用者は、人生の先輩であることを職員は理解し、言葉がけには命令形や否定形を使わないよう気をつけ、気付いた点は職員同士でそっと注意しあい、一人ひとりに向き合う支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の希望に添えるよう援助しています。また言葉などでうまく表現出来ない利用者様に対しては、表情等で察知できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのペースで行動するのではなく、利用者様一人ひとりの生活のペースに合わせて、過ごしていただけるよう空間作りに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの利用者様の状況に合わせ、好みの服装を選んだり、選択困難な利用者様には、本人に代わり支援しています。理容師の方が、2ヶ月に1回来所され、好みの髪型に整えられ、顔そりを行ってくださいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフの一方向的な介助にならないよう、本人の意欲や好き嫌いに配慮し、一人ひとりのペースに合わせて召し上がっていただけるよう支援しています。外食支援や手作りおやつや盛り付け等の手伝いなど支援に努めています。	日々の食事は、法人のセントラルキッチンから栄養に配慮した食事が届くが、外食、おやつ、お好み焼パーティなどで食べたいものを提供する日もある。利用者に配膳や片付けの手伝いをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態での援助を行い、食事・水分摂取量の記録、把握を行い状況に応じて医師の指示の元、栄養補給や点滴を行っていただきながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人ひとりの状況に合わせて、声かけ、介助等で口腔ケアを実施しています。週1回、歯科による口腔衛生を行っていただき支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、車椅子利用の方でも、自走や立位など自立に向けたトイレ誘導を行っています。また夜間はポータブルトイレや安眠できるようパットの種類を検討しながら支援しています。	自立した人は見守りで、支援が必要な人には排泄チェック表をもとに声掛けし、誘導してトイレでの排泄に力を入れ、なるべく自立できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	筋力低下の影響もあり、便秘傾向の方が多く、1日2回のラジオ体操を実施したり、乳製品摂るよう心がけ、状況に応じて下剤等の調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立した方はほぼ毎日、介助の必要な方は入浴日を決め援助しています。また季節感を出すためにもゆず湯や入浴剤を利用し、楽しんでいただけるよう支援しています。入浴できない方にも1日おきの清拭を実施しています。	希望に応じて、毎日でも入浴ができるよう支援されている。嫌がる利用者には言葉がけを工夫して、なるべく入浴してもらえるよう職員は努めている。ゆず湯など、季節ごとの工夫もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムに合わせて、日中の活動量を増やしたり、居室での休息時間を確保し、安心して眠っていただけるよう支援しています。また必要に応じて入眠剤の検討も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の指導の下、服薬管理を行い、個別の看護記録による把握に努め、体調変化が見られるときは、直ちに相談し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の変化を感じていただけるよう、年2回の合同行事、花見や散歩など、外気に触れ気分転換を図れるよう外出計画を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気を見ながら、出来る限り外出の機会をもうけ、支援を行い、家族参加も呼びかけています。	利用者の状態や、気候や天気に配慮して、散歩や近所のスーパーへの買い物、喫茶店や外食へ出かけることもある。また、気分転換を兼ねて少し遠いショッピングセンターへのお買い物ツアーも行われ、中には家族参加もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設立替であり、利用者様にに応じて、その時所持していただき、買い物の援助を行い、本人の意識意地に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族了承のもと、電話での通話連絡対応、手紙のやり取りは出来る限り、本人の希望に沿えるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活観や季節感を取り入れ、清潔感に配慮しながら、居心地の良い空間作りを大切にしながら、生活していただけるよう工夫に努めています。	クリスマスツリーやお正月の紅白梅の飾り、夏のゴウヤカーテンなど季節を感じる演出をしたり、外出時の写真を廊下に飾るなどして和やかな雰囲気、過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり思い通りに、穏やかな時間を過ごしていただけるよう、利用者様同士、気楽に行き来できるよう配慮しています。またリビングではくつろいでいただけるよう、ソファを置き工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みのも、写真やなじみの物等を飾るなど工夫し、居心地の良い部屋作りに配慮しています。	ベッドや収納は事業所のものだが、そのほかに位牌や写真を持ち込んでもらい、一緒に飾ったり掃除したりして、居心地よく過ごしてもらうよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り楽しんで行動して頂けるよう、ケアを提供するときも、一方的にならないよう「できること」「わかること」を確認しながら、安全な環境づくりを工夫し、自立した生活を送って頂けるよう工夫し支援しています。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371601150
事業所名	グループホーム ファミリア植田

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 今年度、同法人理事長が町内会長となったので、町内や学区での地域の行事で誘いがかかるようになった。散歩やスーパーへ買い物に出掛けた時などに近所の方から声をかけてもらっている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 2か月に1度、定期的で開催されて、いきいき支援センター職員の他、利用者の家族も近くの人が多いので参加してもらっている。職員の名前と顔写真を貼り出して、エプロンに名札を付けて欲しいといった要望が会議で上がり、すぐに実行された。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 役所とは書類上の疑問点を尋ねるなど事務手続きで連絡を取る以外にも困ったことがあれば相談に乗ってもらっている。区からのボランティアのお知らせを参考にしたり、問い合わせたりしている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 毎月発行されるホーム便りには、行事などの案内のほか普段の様子が伝わるように利用者の写真も掲載されている。また、理事長を交えた家族の懇親会や、バーベキューなども行われ家族同士の交流の機会を設けている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。